

中丹の教育 まなび通信

京都府中丹教育局
第205号
令和7年2月27日

ICTを効果的に活用できていますか！？

令和6年度外国語科の学びを深める「ICT×探究的な学び」実証研究事業より

今、英語を用いて話す力をはぐくむためのツールとしてICT（AIアプリ・オンライン）の活用が注目されています。中丹地域でも府の指定を受け、舞鶴市立和田中学校が中学2年生を対象にAIアプリを用いた英語学習を進めています。また、台湾の中学生とオンライン上でやりとりをする場も設定されています。目的は、学んだ英語を実際に使い、自分の思いや考えを自信を持って伝えることのできる生徒の育成です。

さて、ここで考えeraitたいことは、「話す」力を伸ばすには、どのようにAIアプリを使えばいいのか？ということです。舞鶴市立和田中学校の実践とそれに伴う生徒の変容などを紹介しますので、ICTの効果的な活用について振り返っていただく一つのきっかけになればと思います。

Interview

Q1.「話す力」を伸ばすために、AIアプリの活用に当たり意識されたことは何でしょうか？

特に単元末のゴール活動と結び付ける活用についてです。AIとの会話では感情豊かなやりとりができないため、AIとの練習後には、必ず生徒同士で会話を行うことを改めて大切にしました。また、AIの述べたセリフを自分のものにすることで表現の幅が広がると考え、自分が使いたいと思った表現をメモすることを生徒に伝えていました。



舞鶴市立和田中学校
高木 友樹 教諭

Q2.AIアプリを使うことで、生徒にとってプラスに働いたことはありましたか？

発音にこだわる生徒が増え、粘り強く、繰り返し問題に挑戦する生徒の姿がありました。

英語が苦手な生徒からはAIとの会話は抵抗が少ないという意見がありました。AIと十分に練習を行うことで自信が付き、英語が苦手な生徒を含め、以前よりも生徒同士で会話をする際に意欲的に取り組むようになったと感じています。

AIアプリの活用実践

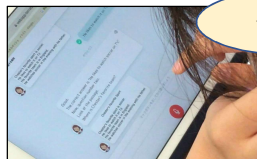
本事業で使用しているAIアプリはクラウド・アプリケーションです。そのためインターネットに接続する必要があります。

①AIとの対話練習を経て、台湾の中学生と遠隔で会話

○「単元のゴール」の共有
単元導入時にルーブリックも併せて生徒と共有する。

ゴール：自分のことを知ってもらうために台湾の生徒に自分の1番好きなもの・ことを踏まえて自己紹介をしよう。

○AIアプリで練習
AIと対話練習を個人で行う。この時に何を目的に練習するのかを確認する。



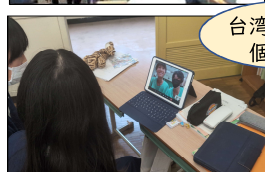
個別練習

○クラスメイトと練習
AIアプリでの練習後、クラスメイトと会話を行う。この時も会話を行う目的を再確認する。



台湾との交流
全体会

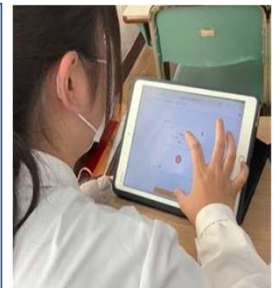
○遠隔で台湾の生徒と会話
身に付けた英語を用いて伝えようとする気持ちが向上！



台湾との交流
個別交流

②単語や教科書本文の発音練習

発音した英語が文字として表示され、AIがどのように音声を捉えたのかがわかります。正しく音が認識されるように繰り返し粘り強く挑戦する姿もありました。



③履歴をもとに目標設定



学習履歴が残り、自分の頑張りや課題の確認ができます。
金・銀・銅のトロフィーで達成度が分かり、学習者のモチベーション向上につながっています。

AIアプリ使用のポイント



AIアプリの使用に限らず、授業で行う一つの活動の目的として活動のつながりを授業者として考えましょう。

①明確に使用する目的を生徒と共有する

「何ができるようになるか」
→どんな言語材料を使えるのか
→どのような内容を伝えられるのか

②AIアプリと生徒同士の練習を往還で

習得した知識・技能の使用
伝える内容を深める
感情豊かな反応
表現できなかった内容の確認

知識・技能の習得
自己調整し、学び続ける力の育成

リアルとデジタルの最適な組合せ